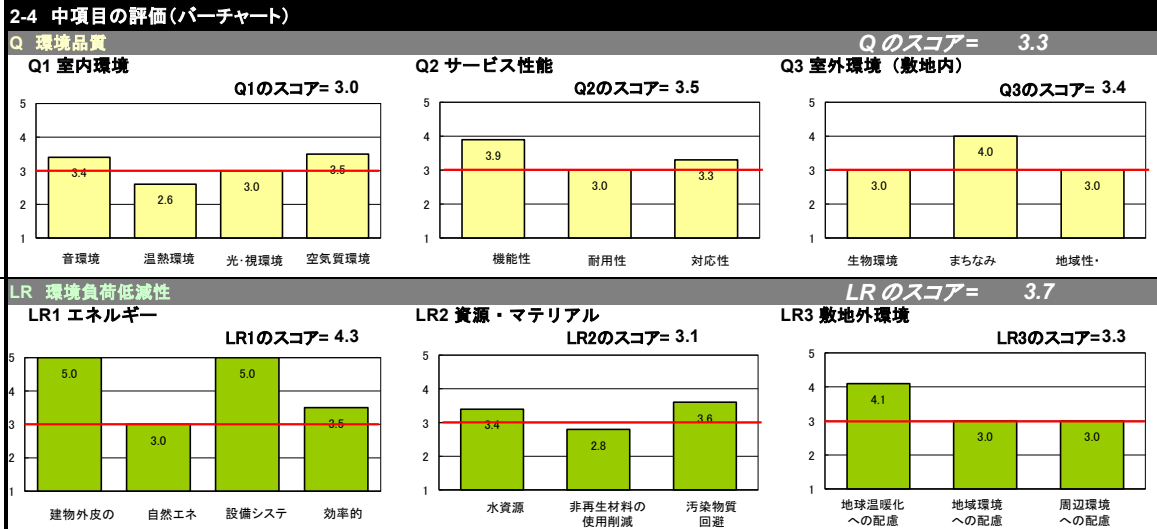
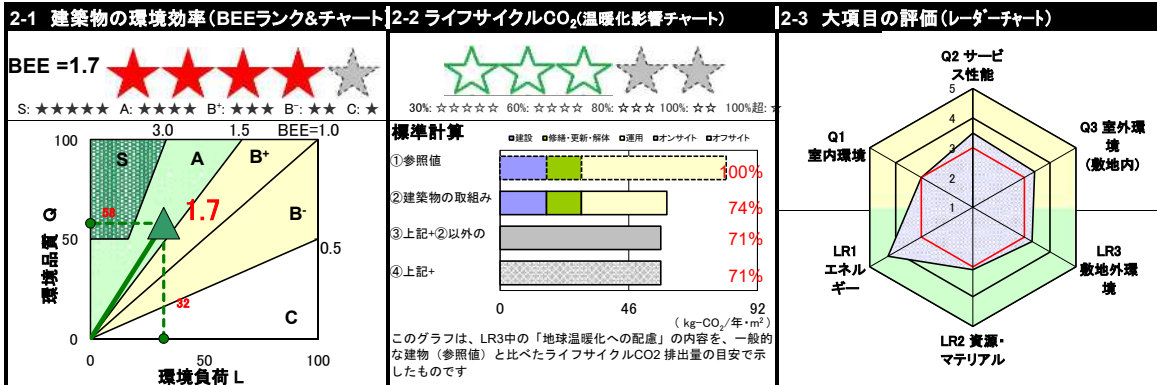


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新東工業株式会社 一宮事業所技術棟	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県豊川市大木町小牧128番3 他9筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	50 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,211 時間/年
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年5月 予定	評価の実施日	2024年11月5日
敷地面積	59,231 m ²	作成者	深津 圭司
建築面積	2,701 m ²	確認日	2024年12月10日
延床面積	5,231 m ²	確認者	深津 圭司



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.1	3.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	53.2 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
- LR-3 1 地球温暖化への配慮
- ②資源の有効活用
- Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
- LR-2 2 非再生性資源の使用削減
- ③敷地内の緑化
- Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
新東工業株式会社 一宮事業所技術棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分	住居・宿泊部分		全体	
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質									3.3	
Q1 室内環境						0.35		-	3.0	
1 音環境				0.1	3.4	0.15		-	3.4	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40		-		
1.2 遮音				0.4	4.2	0.40		-		
1 開口部遮音性能			遮音性能T-2の建具の採用		5.0	0.60		-		
2 界壁遮音性能					3.0	0.40		-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-		-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-		-		
1.3 吸音					3.0	0.20		-		
2 温熱環境				0.3	2.6	0.35		-	2.6	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50		-		
1 室温				3.0	3.0	0.38		-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25		-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38		-		
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20		-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.30		-		
3 光・視環境				0.2	3.0	0.25		-	3.0	
3.1 昼光利用				0.3	3.0	0.30		-		
1 昼光率				3.0	3.0	0.60		-		
2 方位別開口					-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		-		
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30		-		
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00		-		
3.3 照度				3.0	3.0	0.15		-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25		-		
4 空気質環境				0.2	3.5	0.25		-	3.5	
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50		-		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆建築材料を使用	3.0	4.0	1.00		-		
4.2 換気				0.3	3.0	0.30		-		
1 換気量				3.0	3.0	0.33		-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33		-		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33		-		
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20		-		
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50		-		
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50		-		
Q2 サービス性能					-	0.30		-	3.5	
1 機能性				0.4	3.9	0.40		-	3.9	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.3	0.40		-		
1 広さ・収納性			一人当たりの執務スペースが11.4㎡	3.0	4.0	0.33		-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33		-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33		-		
1.2 心理性・快適性				0.3	4.3	0.30		-		
1 広さ感・景観 (天井高)			天井高さ3.0m	3.0	4.0	0.33		-		
2 リフレッシュスペース			執務室の5%程度のリフレッシュスペース	3.0	4.0	0.33		-		
3 内装計画			カラースキームやパースによる内装計画の事前検証	3.0	5.0	0.33		-		
1.3 維持管理				0.3	4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計			風除室の扉の配慮、外部鉄骨の溶融亜鉛メッキ仕上など採用	3.0	5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保					4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				0.3	3.0	0.31		-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33		-		
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	ALCパネルの上高級自然石目調新型装飾仕上材 30年		5.0	0.23		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23		-		
2.4 信頼性				0.1	2.6	0.19		-		
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20		-		
3 電気設備		②		3.0	1.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				3.0	4.0	0.20		-		

3 対応性・更新性				0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.2	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり				-	5.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				3.0	3.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性				-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-		
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-		
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.35	-	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	4.0	0.40	-	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.67	3.0	5.0	0.25	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.15	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.59	3.0	5.0	0.40	-	-	5.0
4 効率的運用					0.2	3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価					1.0	3.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	-	3.1
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水					3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.8	0.63	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			② 独自 岩綿吸音板		-	2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					3.0	3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22	-	-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①		-	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自		-	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

新東工業株式会社 一宮事業所技術課

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	2.9
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.10	外構緑化:53.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用

(評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=

重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 新東工業株式会社 一宮事業所技術棟

計画上の配慮事項	
総合	『新商品・新技術の研究・開発の場＝いのちを育む場』と捉え、新商品・新技術を創出する場を包み込むように多層構造にてデザイン。多層構造・多層空間により機能性を追求し、新たなものが生まれる期待感を表現。
Q1 室内環境	・遮音性能T-2 ・F☆☆☆☆材を採用
Q2 サービス性能	・カラスキームや内観パース等による内装計画の事前検討
Q3 室外環境(敷地内)	・周辺環境に配慮した建物配置、外観デザインとし、景観創出に努めた
LR1 エネルギー	Nearly ZEBを実現するための高効率機器等の採用
LR2 資源・マテリアル	・節水型衛生器具の採用 ・通信手段の多様化
LR3 敷地外環境	・ライフサイクルCO2削減に配慮
その他	建物の核となる“測定・評価エリア”を中心に配置し、周囲・上部を他の諸室で囲うことで外部環境から離隔をとり、安定したより均一な室内環境の実現を目指した。 また、外部負荷の影響の大きい南面・西面にはそれぞれ庇・壁を設けて日射による熱負荷の低減を図り、さらに、植栽や太陽光パネルで最外殻をカバーする計画とした。